

〔正賞 学術文化部門〕

いけだ・よしふみ

1. 氏名 池田 栄史
2. 年齢 68歳 ※2023年11月3日時点
3. 肩書 国学院大学研究開発推進機構教授
4. 住所 埼玉県和光市（熊本県出身）



【受賞理由】

長崎県の鷹島海底遺跡での2隻の元寇沈没船発見など水中考古学の分野で実績を重ねてきた。自ら潜水して調査に臨むとともに、発見した遺跡の保存方法の確立にも貢献した。

周囲を海に囲まれながら、日本の水中遺跡の調査、保護は立ち遅れているとされる中、文化庁の水中遺跡調査検討委員会の委員長として、2022年の「水中遺跡ハンドブック」発刊を主導。調査経験が乏しい地方自治体の文化財担当者らへの手引きとして活用が期待されている。

水中考古学は文献中心だった対外関係史などの研究に新たな光を当てるもので、近年は海底に沈んだ軍艦などの戦争遺跡にも注目が集まっている。特に九州周辺で進展が見込まれる学問分野であり、先駆者の業績を顕彰することは時宜にかなう。

【主な著書・論文・受賞歴】

2011年	「長崎県北松浦郡鷹島周辺海底に眠る元寇関連遺跡・遺物の把握と解明」（平成18～22年度科学研究費補助金研究成果最終報告書）
2013年	「鷹島海底遺跡における水中考古学調査と発見した元寇船」（「考古学ジャーナル」第641号）
2014年	「ぶらりあるき沖縄・奄美の博物館」（共著、芙蓉書房出版）
2016年	「水中考古学手法による元寇沈没船の調査と研究」（平成23～27年度科学研究費補助金研究成果最終報告書）
2016年	長崎県松浦市市政施行10周年功労者表彰
2017年	「長崎県松浦市鷹島海底遺跡における蒙古襲来（元寇）船調査の現況と課題」（「中村浩先生古稀記念論文集 考古学・博物館学の風景」）
2018年	「海底に眠る蒙古襲来－水中考古学の挑戦－」（吉川弘文館）
2019年	「沖縄戦の発掘－沖縄陸軍病院南風原壕群－」（新泉社）
2020年	「日本の水中考古学をめぐる現状と課題」（歴史学研究第1001号）
2021年	「蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究」（平成30年度～令和2年度科学研究費補助金研究成果最終報告書）